

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2274201322
法人名	有限会社 アートプロジェクト
事業所名	グループホーム清水梅ヶ谷の家
所在地 (電話番号)	静岡市清水区梅ヶ谷227-1 054-349-7300
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年7月5日

【情報提供票より】(平成20年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 12人, 非常勤 4人, 常勤換算	14.4人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	○有(100,000円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(平成20年6月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	8 名	要介護4	6 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79 歳	最低 55 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清水厚生病院 たむら歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

まだ若い管理者と介護支援専門員の息が良く合い、脇を固める職員の温かさ明るさが加わって家族からの信頼が厚いホームである。管理者は今年の目標を「職員の質の向上」としており、管理者会議等を利用して法人との協働を図っている。ホームにあっては職員個々の自主性を大切にボトムアップの運営を実践しており、徐々に成果は顕われている。症状が重く受入れが懸念された利用者の回復例は家族や紹介者も驚くほどであり、複数に及ぶこの経験は実践と効果の関係を職員に目の当たりにさせて、感動と自信も与えてくれた。利用者とは職員の区別がつきにくいフランクなホームの雰囲気である。今後も家族や地域、ボランティアの力をいただきながら模範的なホームとなることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価から6ヶ月、いくつかの項目を取り組んでいただきたいこととして提案したが、食に関して日曜日以外は給食利用であったが1ユニットはご飯を毎回ホームで炊くようになった。1ユニットでは他ホームを見学して職員がよく話し合い現在のところ手作り食を継続し利用者に喜ばれている。この6ヶ月は大変さと共に充実感も感じたことと思われる。ゆっくり、じっくりひとつずつ改善していただきたい。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回評価結果は職員に読んでもらい、仕事はどういうものかそれぞれが確認した。利用者家族にも読んでもらったが、結果20枚ものランチョンマットを作り、使いなれた食器を持参してくれた。今回自己評価は全員では取り組めなかったが、評価結果は全職員によって活かされるよう期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者代表・家族・市役所・包括・民生委員・自治会長をメンバーに2~3ヶ月に1回のペースで開かれている。会議では外部評価の報告や理念について説明し地域資源としてのグループホームの役割と意義を理解していただいている。地域委員は他ホームの会議と重なり出席できない場合には意見を書面でいただいている。今後は市や消防署の協力を得ながら救急救命や感染症等について地域住民の参加も呼びかけて行う予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問は多く、その機会に暮らしぶりや健康状態について報告している。訪問の際の職員の対応が明るく話しやすく安心できるとの家族の意見が多数見られた。職員は家族からいただいた意見を管理者に報告し、話し合っって常に良い方向へと対策を立て運営に反映している。家族会も開催されるようになり家族の意見を吸い上げる機会が増えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して、地域の行事に希望する利用者は参加している。散歩に出ると地域の方が声をかけてくださり挨拶や会話を楽しんでいる。近くに住む大家さんも野菜を届けてくれたり、運営推進会議や防災訓練等に出席してくれたり協力的である。自治会総会には管理者が毎年出席して協力をお願いしており、介護相談案内を自治会掲示板に掲示していただいた。また、ボランティアが定期的に来て利用者と時間を過ごしており、家族からも喜ばれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との交流」・「その人らしく」・「一日一日を大切に」・「喜ばれるホーム」の四つのキーワードを四葉のクローバーの中に配した分かりやすい理念が掲示されていた。地域密着型サービスの指針に適った理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は毎日すべての職員と会話することを心がけて、理念の意味等を話し合っている。上からの指示でなく職員の自発的な声を待つ姿勢であり、職員は自ら考え、理念を実現できるよう職員同士で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の行事に希望する利用者は参加している。日常的な散歩で地域の方とも顔見知りになり挨拶や会話を楽しんでいる。近くに住む大家さんが、野菜を届けてくれたり、運営推進会議や防災訓練等に出席してくれたりと協力的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価はプリントして職員に読んでもらい、自分の仕事はどういうものなのかそれぞれが確認している。家族にも読んでもらったが、結果ランチョンマットを作ってくれたり、使いなれた食器を持参してくれたり、手作り食への取り組みに繋げる等大いに活用されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2~3ヶ月に1回のペースで開かれている。会議の後に家族会を設けているので家族の出席が多く活発な意見交換がされている。外部評価の報告や理念の説明により地域資源としてのグループホームの意義を理解していただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	各種相談や書類の提出等に区や地域包括センターとは常に連携を取っている。市主催の管理者と一部職員の出席した研修を職員にも受ける機会を作っていただくよう交渉している。利用者の成年後見人制度の手続きに市の窓口と連携している。	○	ホームにとって家族の意見が貴重であると同様、行政においても市民や施設からの意見により改善が期待できるので、今後も高齢者社会が少しでも充実したものとなるよう積極的な提言をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問は多く、その機会に暮らしぶりや健康状態について報告している。訪問の際の職員の応対が明るく話やすく安心できるとは家族の意見である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族からいただく様々な意見を管理者に報告し、会議で話し合っ常が良い方向へと対策を立て運営に反映している。家族会も開催されるようになり家族の意見を吸い上げる機会が増えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人による異動や出産による退職があったが職員の補充は速やかに対応できている。介護職員の深刻な不足が言われる中で当ホームは応募者も多く、職員採用には情報を集めてホームの職員として相応しい人を選択している。利用者も安定しているためか、新しい職員によく対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修システムを利用したりまた、レポートの提出により法人から褒賞が出る制度があり、職員の学ぶ意欲を促している。管理者はホームのみならず、系列ホーム全体の底上げを願っておりそのためにはすべての職員が同じレベルのケアが可能となるよう法人や系列ホームと協働での取り組みに意欲的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や介護支援専門員は清水区事業者連絡会、清水静岡ケアマネ連絡会等に出席して交流、情報交換をしている。一部職員は他ホームへ見学に行くこともあり、やはり他ホームを見ることは予想外の勉強になるとの意見から、今後は交換研修等交流を多くの職員が体験するよう前向きである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時に、本人や家族から委細な聞き取りをして、ホームに入ってから暮らし方や楽しみごとにできるだけ継続できるよう取り組んでいる。しかし何よりも職員の献身的な介護が利用者の心身の回復をもたらし、結果多くの状態改善実績を生み出している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は共に暮らしていく中で、相手を信頼する安心感、信頼される喜びを互いに感じ取っている。特に利用者からの「楽しかった～」「ありがとう」等の言葉は疲れが吹き飛ぶほどの効果があり、また、利用者が利用開始時より元気になった姿に感動をいただいている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生き来し方や、生活歴があり、思いの把握に努めているが、心を開かない利用者もいる。根気よく辛抱強く対応して信頼関係を構築している。他人の言葉を受け入れ感謝の言葉を口にするようになった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時、入居前に利用者や家族・関係者からの情報を基に介護計画の課題や生活へ生かした計画作成が行なわれている。月に2回のカンファレンスや全体会議は職員参加で意見が伝えあえる話し合いが行なわれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは3ヶ月に1回、細部にわたるケアチェック表は1年毎にすべてを見直している。体調の変化を確認しながら利用者の状態の変化に応じた見直しも随時行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	利用者の病院受診に付き添っ ている。S型デイサービスの利 用者もいる。今年の七夕見学 は「はーとぴあ」の講習を受 けて移動用の車を無料で借り 、2日間に分けて行なうよう スタッフからの意見で実行され た。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	受診支援にも「何の為に付き 添うのか」という意識を職員 が持って付き添われている。利 用者の状態や家族・関係者の 情報や希望を伝え医師と検 討し具体的な指示を受けなが ら支援計画され通院治療が 行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだけ 早い段階から本人や家族等 ならびにかかりつけ医等と 繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	重度化や終末期のあり方や 延命治療については家族と 話し合いが行なわれているが 指針は検討中である。職員は 利用者の機能低下への不安を 感じており、現段階ではホ ームで看取ることまでは考 えていない。	○	重度化や終末期のあり方につ いての指針の検討を期待し たい。職員の精神的な面から も研修会や話し合いが計画 される必要性が感じられる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや 対応、記録等の個人情報の 取り扱いをしていない	個人情報への配慮や言葉掛け への対応については努力され ている。排泄の自立支援にも 積極的に取り組み、改善され た結果がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとり のペースを大切にし、その 日をどのように過ごしたい か、希望にそって支援して いる	利用者の気持ちを考え優しく 対応している。家族からの アンケートにも利用者の希 望に添った支援が受けられて いると満足していることが 感じられた。実際の様子から も、利用者の落ち着いた生活 や会話からも伺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前は主食の炊飯について希望したが、短期間に手作りの食事が実施されていた。期待以上の変化があったのはホームの理念を職員が理解しそれを目指す向上心と努力によると感じられる。	○	食事が手作りと外注の両方を取り入れている現状から職員の検食簿に良い点・改善点などの記載があれば、ホームの食事改善の参考資料として役立つと思われるので検討を希望したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は基本的には決められているが、利用者の希望に応じて入浴の対応がなされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園には季節の野菜が植えられ、経験のある利用者が野菜作りを担当し収穫された野菜を調理して楽しんでいる。ボランティアの協力でフラダンスや作品作りも行なわれている。訪問当日七夕祭りに1000円ずつ持ってカキ氷やお饅頭等買物を楽しんでいた。利用者の出来ることを支え、生きがいを感じていただくよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩は利用者が一団になって外周を2週廻っており、周辺の散歩は利用者の希望でコースを変えながら行なわれている。近隣の方との交流も楽しんでいる。車での外出や買い物など外出の機会はできるだけ希望に添うよう計画に努力されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠は行なわれるが日中は職員が場所の確認、声掛け見守りなどの気配りがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練が行なわれている。緊急様態時ファイルを用意し利用者ごとの既往歴や服薬等の必要な情報を整理されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の確認はされている。利用者の状態に応じた食事形態を行い食べ易いよう配慮し状況の変化については介護計画で見直し・検討が行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は安全面や移動し易いよう考慮されている。季節を感じさせる置物や利用者の作品が飾られている。ソファではTVを観ながらおしゃべりをして午後にゆったり過ごされていた。午後の西日はカーテンで遮っていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の居室は使い慣れた筆筒や鏡台、好みの置物を持ち込み落ち着いた雰囲気になるよう相談されている様子が感じられた。たまには趣味を楽しみ一人の時間を過ごされたり居間と居室を自由に過ごしている様子がうかがえる。		